

## ふるさと教育 取組事例

<b>学校名</b>	<b>邑南町立瑞穂中学校</b>		
<b>学年</b>	<b>主な教科等</b>	<b>主に関わる単元名</b>	<b>活用した教育資源 (ひと・もの・こと)</b>
1, 2, 3	総合的な学習 の時間	森林学習「植林活動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹冠ネットワーク</li> <li>・森林組合</li> <li>・邑南町瑞穂地区の森林</li> </ul>
<b>ねらい</b>	邑南町の森林の状況について知り、植林をすることで将来の邑南町の森林資源について考えることができる。		

### 1 取組の概要

- 11月17日（金）⑤⑥樹冠ネットワークの方をコーディネーター役にして、3年生が森林についての授業を受ける。島根県や邑南町の森林の現状と課題について知る。
- 11月24日（金）⑤⑥樹冠ネットワークの方をコーディネーター役にして、全校生徒が班に分かれて、バスで実際に山へ行って木の苗を植え、植林活動を行う。森林組合19名の方に植林の具体的な指導を受ける。

### 2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

#### （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

邑南町の実態を知るために、直接の当事者である森林組合の方に直接お話を聞くことが重要だと考え、講師としてお願いすることにした。実態を知ること、そして課題を知り、自分にできることを考える。そこから「植林活動」につなげていく。以上のような意図である。

#### （学力育成の視点から）

苗木の植え方や木の成長の様子、植える木であるヒノキについて知ることは、理科の生物分野の学習である。しかし、邑南町の森林の実態とそれらがどのような経済効果があり、生活の収入源となっているかなどは社会分野の学習となる。また、木が人間の生活にどのようにかかわっているかについては、道徳的価値にもつなげることができるだろう。

### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

#### （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・邑南町の森林への興味・関心が高まった。
- ・山を大切にしようとする気持ちが高まった。

#### （学力育成の視点から）

- ・これらの活動から、すぐに学力育成に効果があったというような変化はない。しかし、長い目で見れば大きな効果があると思われる。

### 4 課題や今後の展望

今後は、生徒が邑南町に対してどのようなことが中学生にできるかを考え、提案できるような時間や機会が作れないかと考えている。

